

## 現地からの声～長期MCS（マオイストキャンプ）滞在編～

第2次ネパール国際平和協力隊員 奥泉 智生

「油断していたのかな。」と私は助手席に座りながら考えていた。その足元ではドアの隙間から入った水がゆっくりと靴を濡らし始めていた。完全に私のミスだった。いつもどおり渡れると思って、運転手に川の左側を渡るよう注意するのを怠ってしまった。また「運転手も川の右側が深いことを知っているはず」と思い込んでいた。加えて、乾期に入っているにもかかわらず予想以上に川の水深は深く、川底は大きな岩がごろごろしていた。私は、「さてこの後どうするか」と考えながら、水圧のかかったドアを開けた。

3人でこの大きな岩に乗り上げたNissan Pickupを押してみるもびくともしない。ここで1時間ロスすれば、ネパールガンジ空港にフライト時間までに到着するのは不可能だろう。私はSF（サポートフォース）に近くの村へ行ってトラクターを借りてきてくれるよう指示し、バックシートの後ろにある牽引ロープを取り出した。幸運にも多くの村人を乗せたトラクターはすぐに救援に駆けつけてくれた。私は1人頭50ルピーとしていくら払えばいいのか頭で計算しながら、村人に大きく手を振っていた。

これを書いている現在、私は約1ヶ月半MCSに連続勤務している。以前は1週間勤務が通常であったことを考えると長期勤務といってよいだろう。MCSでの勤務・生活が自分にとって充実したものであることは間違いない。しかしながら長期勤務するとどうしても「慣れ」がでてきて、油断しがちだ。これまでの経験がさらに油断を上乗せする場合もあるだろう。冒頭の話は、そんな油断がもたらした数多くの失敗談のひとつだ。UNMIN 軍事監視要員として勤務し始めから早10ヶ月が過ぎ、若干、勤務に「慣れ」てきた。そんな時期だからこそ今一度気を引き締め、無事帰国できるよう万全を期し、任務に邁進しなければならぬと感じる。

ちなみにネパールガンジ空港には2時間遅れで到着した。しかしながらフライトはさらに5時間遅れであったため、余裕で間に合った……。私はネパール時間にも油断していたようだ。

